キャラクター名
紅能 透璃（くあた・とうり）

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ブラム＝ストーカー	ワークス	UGN支部長D	カヴァー	UGN支部長
オプショナル		年齢	13歳	性別	女性
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	30 %
出自	天涯孤独	経験	実験体	邂逅	保護対象

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	4	0	0			4
精神	2	0	0			2
社会	0	1	0			1

HP	26
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	10		射撃			ＲＣ			交渉	1	
回避			知覚			意志	2		調達	3	
運転：四輪車	2		芸術：絵画	2		知識：レネゲイド	3		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
《赫き剣》	白兵	2r+10	5	78		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
情報収集チーム	
思い出の一品	
造血剤	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：申し子	P	N		
『感情』	P 遺志	N 恐怖		
Sロイス：『使命』	P 執着	N 偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
セレリティ	1	5	メジャー				Dロイス	
効果：	メジャー2回行動、メイン終了時HP-[10-Lv]（最大0）							
赫き剣	7	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：	[Lv*2]任意HP消費、攻撃力[消費HP]+8白兵武器作成							
破壊の血	7	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果：	前提：《赫き剣》　《赫き剣》攻撃力+[Lv*3]、G値+5、HP-2							
聖なる血槍	5	4	マイナー	至近	効果	自動	120%	
効果：	[Lv*5]任意HP消費、武器攻撃力またはG値+[消費HP]							
渇きの主	1	4	メジャー	至近	単体	対決		
効果：	素手・《赫き剣》攻撃装甲値無視、命中時HP+[Lv*4]							
コンセントレイト：ブラム＝ストーカー	3	2	メジャー					
効果：	C値-Lv（下限値7）							
マルチアクション	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：	マイナーエフェクト以外行動行使　シナリオLv回							
夜魔の領域	1	20	オート	至近	自身	自動	120%	
効果：	メイン終了時使用、【行動値】0・未行動状態に　R1回・シナリオLv回							
かしずく歯車	★							
効果：	精密な作業をこなす							
瀉血	★							
効果：	美容健康を維持							
効果：								
効果：								
効果：								

【詳細】
「全てはUGNの意志のままに。私はただそれを為す一柱なり。
　私はUGNの“神の血《イーコール》”。ただそれだけ」
――“イーコール”、虚ろな目で同伴する仲間に

虚ろな目で常に淡々と、そして残酷に仕事を遂行する生粋のUGN支部長。
その様と高い戦闘資質、そしてまるで悪魔に魂を売ったかのような忠実さから、UGNの必要不可欠な“血”として名高い。
彼女はジャームの事件によって両親を殺された孤児で、その上高いレネゲイド資質を持っていたことから6歳でUGNチルドレンとして保護される。
しかし、当時研究素体を求めていたUGNは、保護したレネゲイド資質を持つ子供たちを実験体として、度重なる実験を始めた。
彼女にとってはそれが当たり前であり、同時に苦痛であった。たびたび、同期の死亡報告が耳に入るたび、彼女は恐怖に打ちひしがれた。
しかし彼女には、同じその世界で過ごす友達がいた。同じ気持ちを共有できる友達を、彼女は見捨てることはできなかった。
機を見て透璃含め一部のチルドレンたちが実験施設から脱走したのは4年前のこと。高いオーヴァードとしての能力をフルに使った一世一代の逃走劇。
だが奮闘虚しく、彼女たちは全員UGNの構成員に捕縛され、脱走することは叶わなかった。
透璃は自身以外の者たち許しを請うた。主導したのは透璃である、だから罰を受けるのは自分だけでいいと。それは事実であり、同時にUGNへの懇願であった。
その請いから、およそ一週間ほど経過したであろうか。そのまま意識を失わせられた彼女は、独房の中で覚醒した。
周囲にはそばにいたであるはずの友たちがいない。自分だけがこうして罰を負っている、その時だけはそう思えることができた。
そして直後、彼女は研究員からこのような言葉を聞く。
「お前が下手なことをそそのかさなければ、あいつらは死んでなかったものの」
罰を受けたのは自分ではない。自分以外の友であった。ジャーム化実験の素体となった友たちは、全員実験プロセスの最終段階で死亡したのだという。
透璃はずば抜けて高いレネゲイド資質を見込まれ、故意に見逃されたのだ。
それはれっきとした罰であり、それをそそのかしたのは確かに透璃であった。
その罪の意識が透璃の頭と心を浸食し、それが感情に触れた時彼女の心は完全に崩壊した。